

大豆近況 VOL.159

団体会員
一般会員 各位
賛助会員
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和4年2月7日
一般財団法人 全国豆腐連合会
会長 東田 和久
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省より1月12日に発表された2021/2022年度の世界の大豆生産高予測は、米国産が増加したものの、ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの南米産の減少分が上回り、前月比2.4%減の3億7,256万トンとなりました。また、搾油・輸出需要は減少となりましたが生産高の減少量が上回ったため、期末在庫は前月比6.7%減の9,520万トンに下方修正されました。

米国産につきましては、単収の増加により2021年産生産量は前回より0.2%増の1億2,070万トンとなりました。そのため需要量は微増となったものの、期末在庫は上方修正され、前月比2.9%増の953万トン(在庫率8.0%)となっております。

2021年産大豆の入船状況はなかなか改善の兆候が見られません。コンテナ不足が続き船の予約に時間がかかり、また、北米積出港に到着してから出航までに日数を要し、概ね上海や釜山等を経由してきますので国内主要港向けも北米からの直行便はほぼない状況であり、さらに海上運賃の上昇傾向も依然として続いています(別添参照)。2021年産大豆の入港が大幅に遅れており、2020年産大豆の国内在庫もかなり減少してきていると考えられ、市場価格の上昇が浸透してきているように見受けられます。

また、2021年産及び2022年産大豆の産地よりの販売提案はかなり限られてきている状況にあり、提案があっても価格の上昇傾向が続いています。

1月のシカゴ相場は期近限月で13.50ドル付近から始まりました。南米の乾燥気候による減産予測や中国の輸入量拡大報道、また植物油の需要拡大観測やバイオ燃料としての買いも進み、多少の上下があったものの昨年6月以来の14ドル台をつけて上昇を続け、現地1月28日現在では14.70ドル付近で推移しております。

また、為替相場は1ドル=115円付近から始まりました。初旬には米長期金利の上昇から日米金利差の拡大観測が強まり円売りが進み、1ドル=116円台まで円安が進みました。その後、米国の経済指標の悪化や米国株式相場下落により米景気回復への期待が後退しドル売りが進み1

ドル=113 円台半ばまで円高方向に動きましたが、米連邦公開市場委員会(FOMC)で3月利上げが示唆されたことで再び日米金利差の拡大見込からドル買いが優勢となり徐々に円安に進んでおり、1月31日現在では1ドル=115.50円付近で推移しています。

12月に引き続きシカゴ相場の上昇と円安に進む為替に加え上昇を続ける海上運賃も重なり、大幅なコストアップの状況が続いております。

○国産大豆

令和3年産国産大豆の第2回入札が1月19日に行われ、一部地域を除き全国的に約4,400トンが上場されました。落札平均価格は、普通大豆:¥9,987/60kg(前月比+¥244)、特定加工用:¥9,450/60kg(前月比-¥356)、全体:¥9,838/60kg(前月比+¥82)となりました。落札率は約80%と、前回の約85%から少し下がっておりますが、高い水準を維持しております。

普通大豆(等級品)につきましては北海道の一部を除き100%が落札、特定加工用大豆についても北海道産の一部と新潟県産の一部を除き、100%の落札率となっております。

落札価格としましては、北海道産とよまさり銘柄(ユキホマレ・とよみづき)、おおすず種・里のほほえみ種・エンレイ種等の主要銘柄は¥10,000~11,000/60kg台をつけ、今回初めて上場されたフクユタカ種は東海地区産が¥12,000/60kg台、滋賀県産が¥14,000/60kg台の落札結果となっております、

2月も1回の入札取引が予定されており、約5,400トンが上場される見込となっております。価格動向が特に注目される九州産の上場が予想されます。播種前入札での落札が多く、集荷見込数量の減少により収穫後入札取引の数量が限られているために価格の過熱感が増してしまう想定はされますが、他の銘柄への影響も懸念されるため、やはり冷静な対応が望まれます。

以上

次頁に続く

海上コンテナ輸送の需給逼迫の最新状況について

標記に関して、北米西岸港（LA/LB港、オークランド港）、カナダバンクーバー港等の状況について、国土交通省よりの情報を入手いたしましたので共有させていただきます。

なお、昨年11月時点の情報からアップデートしている主な箇所は以下の点です。

① LA（ロサンゼルス）/LB（ロングビーチ）港の状況について

- ・コンテナターミナル内に9日間以上蔵置されているコンテナに対する課徴金について、アナウンス効果により蔵置コンテナが減少していることから、導入の開始については状況を見ながら延期を繰り返しており、2022年1月27日現在でも延期中となっている。

② LA/LB港におけるコンテナ船の待機プロセスの変更について

- ・2021年11月15日、入港に伴う待機プロセスの変更が実施されている。新たな待機プロセスでは、LA/LB港の直前港を出発した時点で待機プロセスに入り、72時間以内の着岸予約がないコンテナ船は、LA/LB港沖合の一定のエリア外で待機しなければならない。
- ・新たな待機プロセスの導入によって、海事当局は従来と異なる方法でコンテナ船滞船数をカウント・発表している。
- ・これによると、2022年1月9日には109隻が実質的に滞船しており、その後も100隻前後で推移している。

③ オークランド港の状況について

- ・2021年11月以降、徐々に沖待ちが発生し始め、2022年1月中旬、滞船数は10隻～15隻で推移している。

④ 米国政府の動きについて

- ・2021年12月16日、ホワイトハウスは「米国のトラックの労働力強化のための、バイデン-ハリス行動計画」を発表。
- ・2021年12月22日、バイデン大統領は、サプライチェーン・ディスラプション・タスク・フォースとの会合で声明を発表し、港湾の状況の進捗として、LA/LB港において8日以上ターミナルに蔵置されているコンテナがほぼ半分に減少した旨を発表。
- ・2021年12月8日、米国輸出の成長及び海運における相互貿易促進を目的とした「2021年海運改革法案（仮）」が米国下院本会議にて可決、12月9日に上院に送付された。

⑤ バンクーバー港の状況について

- ・2021年11月のブリティッシュ・コロンビア（BC）州での洪水発生後、12月に入り輸入コンテナを鉄道に乗せるまでの滞留時間が大幅に増加。
- ・2021年11月24日、カナダ政府運輸省等はBC州での洪水後における輸送システムの支援について、バンクーバー港管理者への資金提供や、空コンテナの蔵置場所等の取組を発表。
- ・2021年12月21日、カナディアン・ナショナル鉄道は、BC州の洪水で影響を受けた同社の路線における生産性が通常レベルに戻った旨発表。

◀ 調査の内容に関するご質問は下記まで。 ▶

国土交通省 港湾局 港湾経済課
国際コンテナ戦略港湾政策推進室 中村、赤城様
03-5253-8111（内線；46644）